クローズアップ

本学教員の研究を詳しく紹介

グローバル時代の市民を育てるカリキュラム研究

研究テーマに至る背景

私が興味を持っているのは、「国際化、グローバル化といわれる現代において、多様な人々が共に暮らすために、学校でどのような内容を教えるべきか」ということです。このテーマに興味を持ったきっかけは、高校時代の留学経験です。私は、高校2年生の時、交換留学生としてデンマークの高校で1年間過ごしました。その時受けた授業や、留学生としての経験がとても印象に残っています。例えば、1週間の間、全ての教科の時間を使って、自分が興味のあるテーマについて調べて発表するという授業がありました。この授業ではテストはなく、調べたことを工夫して発表しました。絵を描いたり、音楽を演奏した子もいました。今でこそ日本の学校にも「総合的な学習の時間」がありますが、当時の私はこのような授業を受けたことが無かったのでとても新鮮に感じました。「なぜこのような授業をするのですか」と尋ねた私に、担任の先生は「民主主義について教えるためです」と答えて下さいました。この言葉の意味は、当時は分かりませんでしたが、その後、教育を研究する中で次第に考えられるようになりました。もう一つ印象に残っているのはホストファミリーとの生活です。言葉も生活習慣も異なる環境で生活することは簡単なことではありませんでした。時には、ぶつかることもありました。しかし、色々な話をする中で次第に打ち解けることができました。文化や価値観の違う人と共に暮らすことの難しさと同時に、可能性を感じました。これらの経験が

ヨーロッパ評議会で開発された教師用指導書の表紙

韓国での研究報告の様子

イギリスの学校の生徒が作成した公正な貿易（フェアトレード）についてのまとめ

イギリスの学校の生徒が作成した人権についてのまとめ

今の私の研究の原点になっています。

大学・大学院では、グローバル化と教育の関係について学びました。グローバル化とは、人・モノ・情報などが国境を越えて行き交い、様々な領域の問題が地球規模に拡大している事態を指します。例えば、親が仕事を求めて国境を越えて移動し、異なる国の教育を受ける子どもの数が増えるというのもグローバル化の現象の一つです。私は、このような社会の変化に対応した教育とはどのようなものかと考えるようになりました。確かに、英語など外国語を話せるようになることも重要だと思います。しかし、本当にそれだけでしょうか。語学力に加えて、どのような力を子どもたちが身につける必要があるのか、そのために何を教えていけばよいのか、これが私の研究テーマです。

研究へのアプローチ

グローバル時代の教育について考えるため、私は、ヨーロッパの教育を研究対象としています。ヨーロッパ評議会という、ヨーロッパ連合（EU）に似た組織があります。この組織は、第二次世界大戦後、教育を含む、人権、民主主義、法の支配の分野で加盟国間の協力関係を拡大することを目指して設置されました。現在は47か国が加盟しています。ヨーロッパ評議会では、広くヨーロッパあるいはグローバル社会に生きる市民を育てる教育（市民性教育）のプログラムをつくっています。これについて学ぶ切り口として、私は、教師が授業を作る時に参考にする主要な資料である指導書・教育計画（カリキュラム）に注目しました。そこには、プログラムの基本的な考え方が表れていると考えたからです。

カリキュラムを分析する中で、ヨーロッパ評議会の市民性教育の特徴としてわかったことを3つ紹介したいと思います。まず、多様な文化を持つ人々が、自分たちの文化を大切にしつつ、共に暮らしていくための力を身につけることが重視されていることです。ヨーロッパでは、移

民労働者が増加し、学校でも多様な文化的背景を持つ子どもたちが共に学ぶようになっています。そのため、自分のアイデンティティを見つめたり、他の文化に対する偏見やステレオタイプを見直すなどの内容が学ばれています。2つ目に、国を超えて支持される人権や民主主義といった共通の価値を学ぶことが重視されています。ただし、これらの価値を押し付けるのではなく、子どもたち自身が話し合いの中から気づいていくような教育方法がとられています。3つ目に、学んだ価値を社会の中で実践することが重視されています。例えば、「あなたは安いバナナと割高のフェアトレード（公正な貿易）バナナのどちらを買うか」といった価値観が対立する問題について話し合い、結論を導き出すような課題に取り組んでいます。

以上のことから、ヨーロッパ評議会では、多様な文化や価値を持つ人々を尊重する一方で、国を超えたつながりを理念と実践からつくることが目指されていると言えます。私は、グローバル時代の市民を育てる上で、この実践から学ぶことは多いと考えています。

最近、私は以上の実践に学びながら、日本の教育実践に活かしていくにはどうすればよいかを模索しています。その一環として、民間教育団体が実施する「地球市民育成プロジェクト（Global Citizenship Project, GCP）」に注目しています。日本やアジアの大学生が参加するこのプロジェクトでは、約半年間にわたり研修を受け、地域で自分なりにできることを探して行動することが期待されています。私は、プロジェクトのワークショップや研修をサポートし、参加者へのインタビューを通して、プロジェクトの中で学んだことを考察する取り組みをしています。

民間教育団体の
地球市民育成プロジェクトの様子

今後について

素晴らしいカリキュラムや教材は大切ですが、私は、それらを使って教える教師の存在がより重要だと考えています。そのため今後は、教師を目指すみなさんがどのような内容を学ぶべきかという課題にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。今年は、日本とノルウェーの教員養成課程の比較研究を、ノルウェーの研究者と協力して進める予定にしており、互いの教員養成課程から良い点や課題を学んでいきたいと思っています。

プロフィール

学校教育講座
准教授 橋崎（はしざき） 頼子（よりこ）

専門は、カリキュラム論、市民性教育、国際理解教育。
神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程 修了　博士（学術）。
博士課程在学期間に、イギリスヨーク大学でも1年間研究を行った。日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、2012年より現職。奈良市立富雄中学校評議員など。